

勉強することの意味とは何か インドで考える

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：インドに行かれたそうですね。インドで考えたことは何ですか。

A：(林明夫。以下省略) インドの人口は約 10 億人ですが、そのうちの約 30 %にあたる約 3 億人が貧困(ひんこん)、つまり 1 日の収入が 1 ドル(日本円で 105 円くらい)以下であるといわれています。ただ、不思議なことに、失業率、つまり仕事はしたいのだけれども仕事に就(つ)けない人の比率は 5 %と非常に低いのです。

Q：何が不思議なのですか。

A：仕事をしているのに収入が極めて低く、生活するのが難しい人が多いということです。

Q：なぜ、仕事をしていても極めて収入が低いのですか。

A：文字を読み書きできない人が多く、その人たちの中には生活できるだけの収入を得られる仕事に就けない人も多いことが大きな原因の一つであるといわれています。女性の 45 %は読み書きができないそうです。

Q：なぜ女性の %は読み書きができないのですか。学校には行っていないのですか。

A：現在、インド経済は、IT(情報技術)を中心にインドの有史以来の好況で、学校も少しずつ整備されてきましたが、学校の「トイレ」が十分でないところも多いようです。男性にとってもトイレの不備は困るでしょうが、女性にとっては学校のトイレ不足はなお深刻です。

インドへは国際経済会議に出席するために行きましたが、企業は学校のトイレのような基本的な施設を提供するなど、少女たちが本当に必要としていることに配慮することで社会貢献をすべきだと言われました。

学校の基本的な設備の大切さ、学校で読み書きなどを身に付けて生活するだけの収入を得ることの大切さを、インドで考えました。

Q：他に考えたことはありますか。

A：帰りの機中で、隣の席のクマールさんという 28 歳の方と友達になりました。彼は、ニューデリーに奥さんを残し、単身でバンコクとホンコンで働いているそうです。睡眠時間は 1 日 4 ~ 5 時間、今後の家族の幸せな生活のために、毎日 14 時間も働いているそうです。大学には進学しなかった

ということでしたので、高校時代のことをお聞きしたら、高校時代は1日14時間の勉強を毎日続けていたと話してくれました。

「一番好きだったのは数学で、面白くて仕方なかった。科学も歴史も大好きだった。友達もみんな、ぼくと同じくらい勉強していた。大学へ進学した人はもっとやっていたよ。」と、目を輝かせて話してくれました。

なぜインドの高校生はそんなに勉強するのかと質問すると、「どうしてそんなことを質問するのか。高校の勉強は難しいのでそのくらい勉強するのは当たり前で、インドの高校生は誰でも2時間くらい勉強している。変なことを質問するね。」と言われました。

さらにクマールさんは、「高校生の時に1日2時間勉強して鍛えられたので、1日14時間仕事をしても何でもない。勉強の合間にピンポンもやっていて、楽しい高校生活を送れた。」とも話してくれました。

Q：最後に一言どうぞ。

A：世界最先端のIT(情報技術)を梃(てこ)に、3億人以上の貧困を撲滅し、人間らしい生活のできる国を目指し始めたインドで、勉強することの意味を考えました。皆さん、どうお考えですか。

インドでは、スイスのダボス会議を開催する World Economic Forum 主催の「インド経済サミット」に日本代表8名の一員として参加しました。議事録は、www.weforum.orgで検索なさって下さい。会議の公用語は英語でした。